

★ フリーソフト、シェアウェアの活用術
～困ったときはフリーソフト～

パソコンやインターネットを誰でも利用できる環境になってきている。また利用者も大幅に増えてきており、情報伝達手段としてインターネットをメジャーと考えられる時代が近づきつつある。

ところでパソコンは持っている、インターネットも繋がっている人は多い。でも本当に利用している、使いこなしているという人はどれくらいいるのでしょうか？コンピューター＝電子計算機といわれた時代があった。最近ではこんな言葉は死語となっている感があるが、パソコン、インターネットって何なのであるだろうか？

ここでは情報加工編集機器（異論はあると思うが）というような視点で考えてみたいと思う。個人にとって昨今のこれでもかこれでもかと押し寄せてくる情報大氾濫の時代に、情報の取捨選択をどうしていくか？情報洪水に溺れないためにはどうすればいいのか？処理しきれない情報の整理、編集、加工をパソコン、インターネットを使って自分にとって必要な情報を取り入れ、いらぬ情報は捨てるということを行うための手段、方法を考えてみたいと思う。

初めてパソコンを買うと、ワープロソフト、表計算ソフト、メールソフト、Webブラウザ、画像処理ソフト、住所録、時刻案内、地図ソフト、家計簿ソフト、アンチウィルスソフト等々使うか使わないか分からないソフトも一杯バンドルして実装されている。パソコンを何に使うかも考えない内に購入した人も少なからずいる。そのバンドルされているソフトが唯一という感じで、そのソフトウェアの操作方法を学び、操作が出来ることでパソコンを使えるような気分になってしまっているという方もおられるのではないだろうか？

バンドルソフトの操作できるようになった方はまだしも、説明書を読んでも、解説書を読んでも操作方法を習得できない、よく分からないといってパソコンをただの箱化している方もいるのではないだろうか？

パソコンは情報加工編集機器という視点に立つと、ソフトウェアの操作方法を習得することが目的ではないはず。自分の生活、仕事の中で何が情報で、加工、編集するもの、したいものの明確化が一番最初にやるべきこと。それに沿って必要なソフトウェアを選ぶ、その使い方を習得する、という順序ではないのではないだろうか？

ところが実際には、パソコンとは何か、ソフトウェアとは何かも分からない状態から、上記の順序で行うことは無理なことである。ある程度分かってくるといつまでもバンドルされた（メーカーのお仕着せ）ソフトウェアから離れて、自分なりのソフトウェアを選択して見るのも一つの使い方ではないかと思う。

例えば、文章を書くと言うと必ず「Word」で書いて、メールに添付したりするといった使い方、内容を見ると「エディター」で十分というものもある。メールで送受信に使用する場合、紙に印刷して使用する場合と最終的に使用する媒体にあった使い方を考えてみると、市販の重い複雑なソフトウェアを使わなくても簡単なソフトウェアで十分という場合もある。場面場面の使い分けをちょっと工夫するとパソコンも生かされてくるのではないだろうか？

「知的生産技術」梅棹忠夫、「KJ法」川喜田二郎、「整理法」「続整理法」中山正和、超整理法「野口悠紀夫」等で紹介されている情報処理手法も今までの紙ベースばかりではなく、現代のITを駆使することで誰でも手軽に行えるような時代になってきたと思う（彼らの言っていたことが実際に実践できる時代になってきたのではないか）。一般市販のソフトウェアで行えないこと、需要が少なすぎた商品となっていないような小粒でぴりりとしたソフトウェアがフリーソフト、シェアウェアにはあるのではないか。

自分がやりたい処理を思いついたとき、既存ソフトウェアで実現できない場合でも「こんなことを出来るソフトはないか」という視点で探してみる（ホームページで検索、BBS、掲示板で検索）と大抵のものは見つかると思う。

例えばPCのハードディスクの中のフォルダ名、ファイル名を一覧として表示し、印刷できるようなソフトやダイヤルアップ設定でパスワードを忘れた場合

「*****」で表示されているパスワードを読めるソフトなど。

思いもよらないものが見つかることがある。困ったときはフリーソフト、シェアウェアを探してみよう。無かったときは作者に作ってもらうか、自分で作ってみよう??? 少なくともニーズを表に出せばこのネットワークの世界、意外と手をさしのべてくれる人が多いのも事実である。利益追求型の商業主義とは違った価値観がそこにはあって、相互扶助の精神も大きいのではないかと思う。しかし使ってやっているのではなく使わせて貰っているという感謝の気持ちは忘れてはいけないのでは無いかと思う。

今回のシリーズは「フリーソフト、シェアウェアソフト」についてみなさんと一緒に考えてみたいと思っている。なるべく操作説明ではなく、情報処理作業における位置づけ等を考慮しながら、技術用語を羅列しないようにしたいと思っているが、どうなるか?